



発行所 公益財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 岸谷義雄 題字 井戸知事

あなたなら 無事故の着地 決められる!

自治体消防制度七〇周年記念式典 開催

昭和二十三年三月七日に消防組織法が施行され、市町村消防の原則に基づく今日の消防制度が確立して以来、この三月で七〇周年を迎えました。これを記念して、全国から消防関係者が集まり、平成三〇年三月七日(水)一、一時より国技館にて記念式典が天皇皇后両陛下御臨席のもと厳粛に開催されました。

式典の締めくくりとして総務副大臣の閉式の辞の後、東京消防庁音楽隊の演奏とカラーガード隊による演技が行われ、七〇周年記念式典が無事終了しました。なお、平成二九年度の消防団関係の日本消防協会長表彰及び消防庁長官表彰の本県受賞者は次のとおりです。

日本消防協会定例表彰

式典は、国家斉唱の後、総務副大臣の閉式の辞、総務大臣の式辞に続き、内閣総理大臣、衆参両議院議長、最高裁判所長官の来賓祝辞が行われました。その後、内閣総理大臣表彰等の表彰及び感謝状が代表受領者に贈呈されました。



式典会場の様子

功績章

- 神戸市北消防団 副団長 盛本 泰生
神戸市長田消防団 団員 前田 義光
神戸市西消防団 副団長 穴田 泰久
姫路市姫路西消防団 分団長 長谷川 一信
姫路市香寺町消防団 副団長 磯合 則敏
尼崎市消防団 副団長 古田 幸央
明石市消防団 分団長 岩井 保之

表彰旗

- 播磨町消防団

竿頭綬

- 姫路市家島町消防団
豊岡市城崎消防団
多可町消防団

- 西宮市消防団 分団長 太田 裕二
洲本市消防団 分団長 倉本 孝志
芦屋市消防団 分団長 藤原 成憲
伊丹市消防団 分団長 久保 陽一
豊岡市日高消防団 副団長 藤原 正利
加古川市消防団 分団長 澁谷 勇
赤穂市消防団 副団長 土手 一弘
西脇市消防団 分団長 宇野 之智
宝塚市消防団 分団長 今北 照明
三木市消防団 副団長 藤原 武
高砂市消防団 分団長 石原 勝広
川西市消防団 団員 寺内 好雄
小野市消防団 分団長 山田 正一
三田市消防団 副分団長 前中 良介
加西市消防団 分団長 嵐倉 玲尚
篠山市消防団 分団長 上田 将也
養父市消防団 副団長 西谷 寿夫
丹波市消防団 副団長 西垣 毅

- 南あわじ市消防団 副団長 奥田 泰大
朝来市消防団 副団長 福本 章良
淡路市消防団 副団長 増田 博
宍粟市消防団 副団長 納 清文
たつの市消防団 副団長 中田 浩一
加東市消防団 分団長 森口 光正
猪名川町消防団 分団長 山口 周一
播磨町消防団 分団長 畑中 祥宏
神河町消防団 分団長 松下 真也
太子町消防団 副団長 木下 隆生
上郡町消防団 副団長 森崎 原吉
佐用町消防団 副団長 西田 哲也
香美町消防団 分団長 梶本 宏
豊岡市豊岡消防団 副団長 毛戸 和宏
豊岡市豊岡消防団 副団長 松村 令子
神戸市兵庫消防団 副団長 加賀 義昭
神戸市北消防団 副分団長 金子 裕弘
神戸市長田消防団 副分団長 一ツ家陽三
神戸市須磨消防団 副分団長 西馬 敏之
神戸市西消防団 副分団長 川崎 公晴
姫路市姫路東消防団 副分団長 安福 元章
姫路市消防団 副分団長 高尾 秀正
分団長 井口 博文
分団長 金田 好弘
分団長 大北 純稔

- 姫路市飾磨消防団 分団長 宮浦 利昭
姫路市網干消防団 副分団長 川淵 博祥
姫路市家島町消防団 分団長 桐田 豊文
姫路市消防団 副分団長 土居 教宏
姫路市消防団 副分団長 寺本 宏之
三田市消防団 副分団長 濱田百合子
明石市消防団 副分団長 阪本 正治
西宮市消防団 副分団長 安藤耕一朗
洲本市消防団 副分団長 滝井 慎也
伊丹市消防団 副分団長 田中 孝一
芦屋市消防団 副分団長 河上 和弘
班長 志保 勝則
伊丹市消防団 副分団長 上田 孝信
相生市消防団 副分団長 野村 重彦
豊岡市豊岡消防団 副分団長 山本 晃
豊岡市豊岡消防団 副分団長 西原 廣見
豊岡市竹野消防団 副分団長 山本 晃
豊岡市出石消防団 副分団長 西原 廣見
豊岡市竹野消防団 副分団長 門田 尚之
豊岡市但東消防団 副分団長 井本 宏之
加古川市消防団 副分団長 山本 陽一
神戸市長田消防団 副分団長 黒田 育利
神戸市須磨消防団 副分団長 岸本 一郎
神戸市西消防団 副分団長 前田 雅文
赤穂市消防団 副分団長 福本 博之
西脇市消防団 副分団長 増岡 学
宝塚市消防団 副分団長 島田 康治
三木市消防団 副分団長 稲見 嘉一
分団長 金井 正吉

- 高砂市消防団 副分団長 藤坂 和磨
川西市消防団 副分団長 古田 輝信
小野市消防団 副分団長 鎌田 弘和
富田 哲也
岡本 隆史
三田市消防団 副分団長 富田 隆史
加西市消防団 副分団長 坪井 健
大橋 正勝
三木 延隆
田中 真吾
篠山市消防団 副分団長 木戸 隆弘
分団長 森 博一
養父市消防団 副分団長 井上 誠
丹波市消防団 副分団長 高橋 副武
分団長 藤野 伸一
村上市 洋一
細川 慈真
足立 勝
細見 裕介
坂東 守
井上 英樹
土居 貴志
阪本 彰宏
金崎由季生
秀 充浩
朝来市消防団 副分団長 中島 茂仁
淡路市消防団 副分団長 谷垣 貢
本多 正典
坂本 幸夫
片岡 伸介
淡路市消防団 副分団長 和田 誠規
安粟市消防団 副分団長 今村 昭
分団長 谷井 直人
福下 和明

- たつの市消防団 副分団長 船積 雅司
遠藤 貴
坪田 隆
山口 陽司
浦野 光生
小堀 賢二
丸山 勝也
猪名川町消防団 副分団長 野木 万也
多可町消防団 副分団長 眞鍋 良平
稲美町消防団 副分団長 笹倉 敏弘
草譯 峰明
竹内 恒司
西川 弘人
福崎町消防団 副分団長 大杉 泰宏
副分団長 正木 大祐
市川町消防団 副分団長 海金 和哉
神河町消防団 副分団長 岩元 国芳
太子町消防団 副分団長 角南 博之
上郡町消防団 副分団長 山本 正利
佐用町消防団 副分団長 眞岡 誠司
香美町消防団 副分団長 柿本 穰
班長 水垣 清和
団員 松井 重夫
新温泉町消防団 副分団長 坂本 勝美
豊岡市豊岡消防団 副分団長 楠 貴志
班長 岡谷智恵子
神戸市東灘消防団 副分団長 高橋 誠
神戸市兵庫消防団 副分団長 岩崎 恭彦
分団長 井上 龍郎

○勤続章 (次ページに続く)



神戸市北消防団 副団長 森本 幾二 分団長 上垣 和伸 部長 藤井 宏一 団員 小河源和宏 大垣 政幸 小畑 貞巳 新井 慎吾 西畑 龍哉 平下 克也 水野 貞治 中西 浩之 山本 隆次 西脇 元宏 林 信男 田中 滋 井上 優 荒内 泰行 中島 一二 保科 一弘 今北 康博 仲 日出男 平 準司 奥井 利和 辻井 剛 小南 昌玄 有井 信雄 上元 清治 仲野 仁志 皿池 正則 新谷 達雄	神戸市長田消防団 分団長 住本 雅紀 副分団長 宗國 学司 神戸市西消防団 副団長 石井 邦夫 岡崎 博史 伊須原 透 正井 利実 大谷 勝彦 森本 雅之 岸野 秀則 井上 博嗣 穴田 勝浩 政井 秀彦 福井 雅樹 中田 雅人	姫路市姫路東消防団 団員 奥田 知樹 姫路市姫路西消防団 分団長 川島 勝 横内 章彦 姫路市飾磨消防団 分団長 鯉塚 方伸 肥塚 恵司 姫路市網干消防団 部長 肥塚 基弘 姫路市家島町消防団 分団長 山崎 善教 副分団長 熊野 大五 姫路市夢前町消防団 団員 名定 賢吾 山本 一義 尼崎市消防団 副分団長 寺田 純一 部長 福永 利男 班長 田中 宏昌 中村 伸也 北島 孝治 岡本 学 明石市消防団 部長 藤原 武晴 団員 安樂 正直 岩佐 正之 前田 浩則 松原 茂 飯田 信夫 洲本市消防団 副団長 中原 章晴 伊丹市消防団 副分団長 巽 明彦 相生市消防団 分団長 矢野 勝也 松原 司 池田 勲 平田 善規 大林 國弘 吉田 淳 松浦 誠 西川 鉄也 中西 大和 吉野 薫 前田 肇	豊岡市豊岡消防団 副分団長 黒坂 美行 豊岡市竹野消防団 分団長 米田 弘司 副分団長 田畑 善延 部長 加悦 正人 豊岡市日高消防団 団員 上野 貴則 豊岡市出石消防団 班長 原 康昌 中嶋 勝己 中嶋 政信 加古川市消防団 分団長 黒田 育利 副分団長 橘 広保 部長 大谷 慎一 班長 松井 時己 長谷川和志 廣瀬左太芳 大西 良典 赤穂市消防団 副団長 富田 義則 分団長 前家 利光 松本 靖志 安本 正樹 丸尾日出男 有年 謹吾 岩佐 誠 蓬 伸一郎 神吉 安彦 宝塚市消防団 副分団長 小西 昌治 班長 梅脇 成公 福永 誠 松田 真 三木市消防団 部長 中手 秀和 池町 徹也	立花 一成 室井 泰人 中田 雅之 石井 勝信 石原 康範 中本 浩 高砂市消防団 副分団長 黒坂 美行 川西市消防団 分団長 田畑 善延 部長 加悦 正人 東 清昭 野田 幸治 小川 一三 溝下 光次 田中 辰男 大西 真史 福田 哲郎 藤井 民弥 西村 晴彦 小野市消防団 副分団長 織田 崇志 淡路市消防団 班長 木村 勝 朝来市消防団 副分団長 戸田 正則 分団長 衣川 志郎 足立 博行 村居 昌彦 宮本 昌彦 中川 拓也 田村 友保 櫻木 修二 前川 徹 南あわじ市消防団 副分団長 平井 一也 南あわじ市消防団 副分団長 中川 順博 高田 直樹 吉水 速生 戸田 淳一 門 浩稔 安随 宏和 高田 直樹 石井 孝一	丹波市消防団 副分団長 萩野 克己 南あわじ市消防団 副分団長 中川 順博 南あわじ市消防団 副分団長 平井 一也 南あわじ市消防団 副分団長 前川 徹 南あわじ市消防団 副分団長 櫻木 修二 南あわじ市消防団 副分団長 田村 友保 南あわじ市消防団 副分団長 中川 拓也 南あわじ市消防団 副分団長 宮本 昌彦 南あわじ市消防団 副分団長 村居 昌彦 南あわじ市消防団 副分団長 池本 大助 朝来市消防団 副分団長 戸田 正則 朝来市消防団 副分団長 衣川 志郎 朝来市消防団 副分団長 足立 博行 朝来市消防団 副分団長 村居 昌彦 朝来市消防団 副分団長 宮本 昌彦 朝来市消防団 副分団長 中川 拓也 朝来市消防団 副分団長 田村 友保 朝来市消防団 副分団長 櫻木 修二 朝来市消防団 副分団長 前川 徹 朝来市消防団 副分団長 平井 一也 朝来市消防団 副分団長 中川 順博 朝来市消防団 副分団長 高田 直樹 朝来市消防団 副分団長 石井 孝一	猪名川町消防団 副分団長 仲上 茂信 北中 千嘉 野木 寿春 井上 高文 西村 勇次 高上 健二 福井 和弘 多井 忠夫 上神善太郎 前田 雅章 西田 賢治 阿部 勝己 中元 秀典 播磨町消防団 副分団長 大江 真一 播磨町消防団 副分団長 向井 信恩 播磨町消防団 副分団長 小寺 文雄 播磨町消防団 副分団長 井川 雅仁 播磨町消防団 副分団長 山本 和也 播磨町消防団 副分団長 今津 輝夫 播磨町消防団 副分団長 畑谷 秀樹	佐用町消防団 副分団長 船引 一夫 竹内 秀樹 野村 泰光 福本 秀之 熊淵 隆則 服部 充伸 小川 雄三 香美町消防団 副分団長 長岡 裕文 分団長 谷脇 文雄 部長 井上 康浩 上治 紀仁 小林 友行 新温泉町消防団 副分団長 岡田 恵治 副分団長 中村 重信 副分団長 岡田 熊吉 副分団長 坂本 英樹	〇都道府県協会等役員員永年 勤続職員表彰(一名) 公益財団法人 兵庫県消防協会 書記 山本 弘子 (次ページ下段に続く)
--	--	---	---	--	--	---	--	---



被表彰参列者の皆様



平成29年度「ひょうご安全の日のごとどい」開催!

平成三〇年一月一七日 (水) HAT神戸ほかにて、ひょうご安全の日のごとどいを開催しました。県では毎年、「一・一七は忘れない」「伝える」「備える」「活かす」をテーマに、災害文化を豊かにし、安全・安心社会の形成のために、ひょうご安全の日のごとどいを開催しています。阪神・淡路大震災から二〇年以上が経過し、震災を直接体験していない世代が増えている状況において、次なる災害に備えるためにも、あの震災の経験と教訓を次世代に伝えていかなければなりません。当日は、①一・一七のごとどい(追悼行事)、②一・一七ひょうごメモリアルウォーク二〇一八、③交流ひろば・ステージ、④防災訓練の四部構成で、三二〇〇人が参加しました。

③ 交流ひろば・ステージ  
 震災から七年目を迎える東日本大震災や平成二八年四月の熊本地震による被災地の復興を支援し、交流の絆を深めるとともに、県民の防災・減災意識の向上を図るため、NPOやボランティアグループ、防災関係機関等による活動展示や炊き出し、体験型の防災・減災学習などを実施。

④ 防災訓練  
 安全で安心な社会づくりをめざし、防災関係機関と連携した、県民参加による体験型の防災訓練を実施。

⑤ 多彩なステージの展開  
 震災の教訓と経験を次世代に繋いでいくため、県内外で防災や復興支援をテーマに表現活動を実施する様々な団体による多彩なステージイベントを実施。

(主な内容)  
 ・「Permanent Fish」や「あまゆいず」によるミニライブ  
 ・女性消防団による啓発劇  
 ・一般財団法人日本気象協会の気象予報士や被災地のマスコットキャラクターが登場する防災クイズショー  
 ② 県政一五〇周年記念事業の啓発  
 ウォーク参加者への缶バッチの配布、ステージやブース展示によるPRを実施。  
 ③ 東日本大震災、熊本地震の復興応援  
 東日本、熊本の被災地の早期復興を祈念して、東北(宮



【東北の物産展】



【1.17ひょうごメモリアルウォーク2018】



【追悼行事・知事挨拶】

④ 多彩な参加者によるウォーク等の実施  
 城島、福島県、岩手県)や熊本県の参加を呼びかける。  
 (主な内容)  
 ・東北三県および熊本県による観光復興PR(ステージ)  
 ・東日本・熊本における復興の取り組み状況の紹介(ブース)



【避難訓練】



【Permanent Fishミニライブ】



【交流ひろば入口】

⑤ 多彩な参加者によるウォーク等の実施  
 ・JICA関西と連携し、海外からの研修員等の参加の呼びかけ。  
 ・企業、団体等の参加による帰宅訓練ウォークを実施。  
 ・交流ひろばの出展に外国人団体に参加を呼びかけ、SNSを活用した事前・当日のPR  
 フェイスブック等SNSを活用したきめ細やかなPRの実施。

消防庁長官表彰

<p>○表彰旗          豊岡市但東消防団</p> <p>○竿頭綬          尼崎市消防団          神河町消防団</p> <p>○功労章          西宮市消防団          団長 松本 俊治</p> <p>○永年勤続功労章          神戸市東灘消防団          副団長 池田 徹          神戸市西消防団          副団長 石丸 幸雄          神戸市北消防団          副団長 後出 明利          神戸市兵庫消防団          副団長 後藤 浩嗣          神戸市北消防団          副団長 辻元 泰輔          神戸市灘消防団          副団長 中本 敏彦          神戸市西消防団          副団長 馬 昌典          神戸市垂水消防団          副団長 森本 喜久          姫路市家島町消防団          副団長 中村 國彦          姫路市姫路東消防団          副団長 加納 道廣          山口 明彦          姫路市飾磨消防団          副団長 吉田 達生          分団長 俵 淳治          樋口 勝朗          福西 泰孝          日置 正己          明石市消防団          分団長 荒内 浩治          副団長 絹川 義明          西宮市消防団          分団長 丹波市消防団          副団長 畑 啓祐</p>	<p>洲本市消防団          副団長 岡澤 伸祐          分団長 志保 勝則          芦屋市消防団          副分団長 小阪 務          伊丹市消防団          分団長 佐々木信一          相生市消防団          分団長 平田 秀一          相生市消防団          分団長 矢野 勝也          豊岡市竹野消防団          副団長 東 均          豊岡市出石消防団          副団長 井本 宏之          豊岡市城崎消防団          副団長 田中 護          加古川市消防団          分団長 奥田 廣隆          赤穂市消防団          副団長 黒田 育利          長谷川敏昭          土手 一弘          櫛藤 利文          木虎 知己          藤原 秀樹          西田 勝          三木市消防団          副団長 松本 圭司          高砂市消防団          分団長 江井 唯夫          砂川 秀一          川西市消防団          部長 大向 善信          今北 芳生          小野市消防団          副分団長 澤口 浩幸          三田市消防団          分団長 中 則雄          養父市消防団          副団長 高橋 副武          分団長 大林 勝幸          小橋 透          谷口 広行          丹波市消防団          副団長 畑 啓祐</p>	<p>南あわじ市消防団          副団長 大尚          朝来市消防団          副団長 足立 守宏          三木 俊英          淡路市消防団          副団長 奥井 康文          濱西 亮治          和田 誠規          岸野 健三          中田 浩一          上月 一朗          山口 周一          たつの市消防団          副団長 前田 章吾          猪名川町消防団          分団長 乾 洋一          大西富士男          多可町消防団          副団長 遠藤 泰尚          太子町消防団          副団長 廣岡 稔巳          佐用町消防団          副団長 竹田 好作          香美町消防団          副分団長 細川 龍也          新温泉町消防団          副団長 村尾 忠司          分団長 植村 匡繼          副分団長 河越 交功          副分団長 河越 交功</p>
---	--	--



被表彰参列者の皆様

○事務従事職員表彰  
 広域防災センター消防学校  
 校長 庄慶 浩一  
 栄えある受賞おめでとうございます。





# 平成二九年度女性消防団員技術研修会

(公財)兵庫県消防協会

平成三〇年二月四日(日)  
兵庫県消防学校にて女性消防  
団員技術研修会を開催し、県  
内から五五名の女性消防団員  
が参加しました。

今回の研修は、礼式訓練と  
小型ポンプの操作方法を消防

学校教官からご指導いただき  
ました。

礼式訓練も小型ポンプの操  
作方法も全て屋外で実施し、  
寒い中でしたが放水訓練も実  
施しました。

礼式訓練、小型ポンプの操



【小型ポンプの操法を学びます】

作方法共に、教官方からきめ  
細かい指導をしていただき、  
少人数に分かれて訓練を実施  
したことで、一人一人への教  
育効果も高く、受講者からは  
「分かりやすかった。」「細  
かいところまで詳しく教えて  
いただけた。」との感想をい  
ただきました。

また小型ポンプの操作方法  
については、普段なかなか触  
れる機会のない小型ポンプに  
実際に触れ、放水を行うこと  
で、ポンプのしくみや水圧の  
すごさを体感することができ  
ました。また消火栓と防火水  
槽の二種類の使い方やホース  
の巻き方なども学ぶことがで  
き、少人数で受講できたおかげもあって、それぞれの役割  
を良く理解することができ、  
班内でのコミュニケーション  
も取りやすかったようです。  
ポンプの操作は危険も伴いま  
す。お互いにコミュニケーション  
を密に取ることが大切  
だということを実感してい  
ただくことができました。

受講生の皆さんからは、礼  
式の応用を学びたい、本格的

な操法も学びたいなど、前向  
きで熱心なご意見を多くいた  
だきました。受講生の皆さん  
のスキルが向上するよう、今  
後も充実した研修会を実施で  
きるようにしていきたいと思  
います。

最後になりましたが、本研  
修会でご指導くださった消防  
学校教官の皆さま、寒い中にも  
関わらず放水訓練の指導や  
補助をしてくださった、随分  
消防職員の皆様、本当にあり  
がとうございました。

この度の研修会参加消防団  
は次のとおり。

- ・神戸市北消防団
  - ・神戸市長田消防団
  - ・神戸市垂水消防団
  - ・尼崎市消防団
  - ・明石市消防団
  - ・芦屋市消防団
  - ・伊丹市消防団
  - ・豊岡市豊岡消防団
  - ・豊岡市出石消防団
  - ・三木市消防団
  - ・川西市消防団
  - ・小野市消防団
  - ・三田市消防団
  - ・丹波市消防団
  - ・南あわじ市消防団
  - ・淡路市消防団
  - ・猪名川町消防団
  - ・播磨町消防団
- ※上記参加者他、県内消防  
本部職員・市町防災担当  
職員等二〇名



【放水の水圧を体感しました】



【礼式訓練・班員でお互いに動作確認を行います】



【礼式訓練・美しく敬礼します】



【防火水槽からの取水を実践】



【ホースの巻き方も学びました】



【筆保事務局長挨拶】



【礼式訓練・教官から細かい動きを指導していただきます】



# がんばってます、女性消防団員

## 『桜の花のように 誰からも愛される存在に』

朝来市消防団和山支団サクラ隊

朝来市消防団では、現在消防団員一〇〇六名のうち四五名の女性団員が支団毎に「リンドウ隊」、「サクラ隊」、「ヒメハナ隊」、「ササユリ隊」として活躍しています。

今回、ご紹介させていただく「和山支団サクラ隊」は、朝来市が誕生する一四年前になる旧和田山町消防団時代の平成三年四月に発足した、県下でも有数の歴史ある女性隊で現在団員数は二六名です。

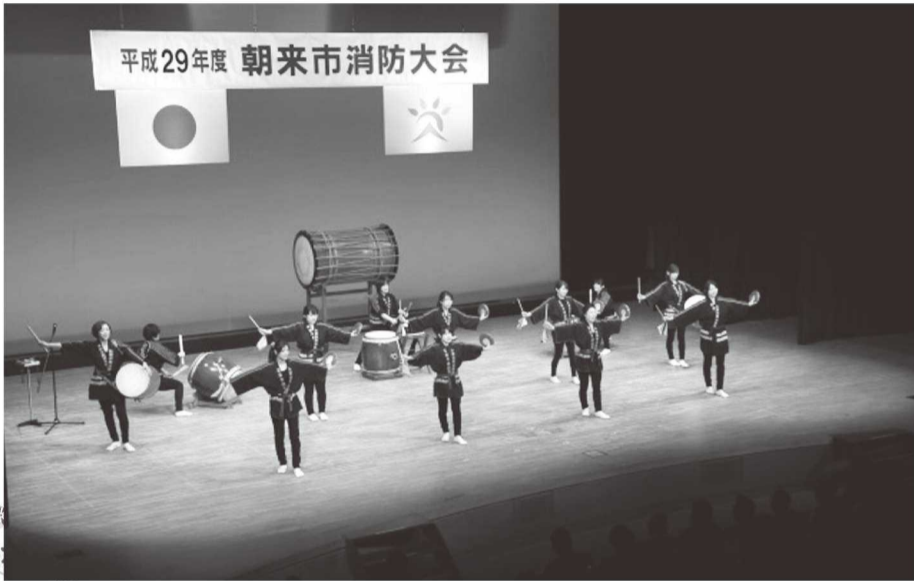
まず、始めにサクラ隊を語るに外せないことがあります。

それは、所属の女性団員の半数以上が「太鼓の達人」であるということです。

朝来市では毎年四月の第一日曜日に朝来市消防大会を開催しており、その消防団一大イベントのオープニングを飾るのがサクラ隊を中心とした太鼓の演奏であります。

女性らしい優雅さの中に、消防団員らしいたくましさや垣間見せながらの演奏は出席者全員が感極まってしまうほどの見事なものであります。

しかし、サクラ隊の凄いところは太鼓



消防大会太鼓演奏

だけではありません。毎年一月九日に行われる消防本部との合同夜間火災訓練では、男性団員に引けを取らない、ホース連結からの見事な放水活動を魅せてくれます。

日々の防火啓発活動はもちろんのこと、火災訓練、太鼓の演奏など多岐にわたり活躍している「サクラ隊」は、桜の花のように誰からも愛される存在として、今後も市民の生命と財産を守ることを使命とし邁進して頂きたいと思えます。

## 消防団加入促進キャンペーン 実施中!



消防団は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、災害時の消火活動はもとより、防火防災指導や啓発活動など、地域防災力の要として幅広い活動を行っています。

消防団は、地域住民の安心安全を確保するために欠かせない組織ですが、社会環境の変化により消防団員数は減少しており、地域防災力の低下が懸念されております。



### 消防団員募集

あなたもこの街の救世主に!!

消防団に関する詳しい情報は「消防団」検索  
<http://www.fdma.go.jp/syobodan/>



総務省消防庁  
Twitter

## われら 若手消防団員

～ 地元の消防団に入団して ～



篠山市消防団  
第一分団 第一部  
森田 憲二

私が篠山市消防団に入団したのは、平成二九年四月です。以前から、地元で就職して生活していたため、地元の消防団の活動について見聞きしており、私も消防団に入団して活動した方がいいのではないかと、と常々感じておりました。しかし、体力に自信がないことや引つ込み思案な性格からなかなか自らの意思で入団することができなかったのですが、平成二九年一月に地元の消防団の部長から直接お誘いを受けたことがきっかけとなって、入団しました。

まだ入団してから一年も経ってはいないのですが、実際に入団してみると部長をはじめ先輩方から温かく受け入れていただき、非常に助かっております。

そして、これまで先輩方からご指導いただきながら、消火訓練や巡回、年末警戒、出初式などに参加しましたが、地元住民が安心して生活するためには地元消防団の活動はなくてはならないのだな、と改めて強く感じました。

火災に限らず、例えば、広域の自然災害が起こった際に地元でいち早く集合して活動ができるのは消防団以外にありません。今は自分がそのような消防団に所属していることに誇らしい気持ちを感じております。

これから操法大会の訓練などを通じてしっかりと技能を身につけ、篠山市消防団員として地域住民のために役立てるようがんばりたいと思います。

入団促進キャンペーンの時期と位置づけ、消防団員募集についての広報の全国的な展開を図っています。

消防団員には、サラリーマン・学生・主婦の方など、年齢・性別・職業を問わず色々な方が参加されており、最近

は女性の方も多く参加され活躍されています。

あなたも消防団に入団し、地域防災力向上に貢献してみませんか?



# 消防団ピックアップ

## 『地域防災力の強化』

### 福崎町消防団

福崎町は、昭和三十三年五月三日、田原村、八千種村、旧福崎町の一町二村が合併して誕生しました。古くから交通の要衝として栄え、周囲を緑の山にかこまれ、中央部を清流市川が流れています。

福崎町消防団は、一本部三分団、団員数は六〇〇名で、平均年齢は三一・七歳と比較的若い団員で構成されています。

消防ポンプ自動車二台、小型動力ポンプ積載車三〇台、指揮車二台を配備し、日夜、地域住民の生命・財産を守るため訓練・防火啓発に励んでいます。

また、姫路市中播消防署との合同訓練や、町内企業・学校での避難訓練・防災訓練等に積極的に参加し、地域の防災力やコミュニティの向上にも努めています。

#### 【新入団員・幹部教養訓練】

毎年、四月のはじめに、幹部団員及び新入団員全員を対象とした教養訓練を実施しています。この訓練では、消防職員と本団幹部で団員への指導を行い、号令のかけ方や敬礼の仕方などの礼式訓練と、消火活動に必要な器具取扱訓練を実施しています。

#### 【消防操法大会】

消防団員の消防技術及び士気向上を図ることを目的とし、火災現場における行動の基礎であり、日頃の訓練の成果を発揮する場として、毎年、操法大会を実施しています。



#### 【水防訓練・講習会】

隔年で水防訓練を実施しています。消防団員と町職員が小隊を編成し、積み土のう工法、竹しがらみ工法、せき板工法といった、水流をさえぎる工法の実践訓練を行い、水害を未然に防ぐための知識と技術力を身につけています。

また、水防訓練を実施しない年は、水防活動に必要な情報収集、工法等に加え、安全対策について、水防講習会を行っています。



#### 【普通救命講習会】

消防団員の救急救護の知識の取得を図るため、毎年、消防団員の指導による三時間の普通救命講習会を実施しています。講習では、AEDの使用方や心肺蘇生法などの実技を行い、一次救命処置の手順を学びました。

#### 【ライフジャケット装着訓練】

近年、集中豪雨等が増加しており、水害現場で活動する消防団員の安全を確保するためライフジャケットを配備しました。配備に伴って消防職員による指導のもと、ライフジャケットの正しい装着要領の習得や、川などに転落した場合の対処方法や心構えを学びました。



【消防団員公務災害防止研修会】  
消防団員の公務災害防止のための研修として、消防基金が助成・後援を行っている安全管理セミナーや災害救援ストレス対策研修を実施し、安全管理と健康管理の重要性、惨事ストレスの知識と対応等について学びました。

## 『市民から信頼される消防団を目指して』

### 高砂市消防団

分団三七班、団長以下総勢七〇〇名体制で発足しました。



【出初式（部隊観閲）】

現在は、一市一団七分団三九班、団長以下六七五名で、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、日々訓練を重ね、地域住民から信頼される消防団を目指して、消防力の強化に努めています。

#### ※消防出初式

消防団の士気高揚と、地域住民へ火災予防に対する意識の向上を図ることを目的として、年頭に消防出初式を実施しています。

#### ※若手団員訓練

入団三年以内の若手団員に対し、経験豊富なベテラン団員と消防職員の指導により、訓練礼式・可搬式ポンプ及び消防車両の取扱い・ホース延長・放水訓練等を行い、若手団員の知識と技術の向上を図っています。

#### ※水防訓練

梅雨、台風等の出水期を迎えるにあたり、関係機関との連携強化と業務の円滑な運営を図り、被害を軽減することを目的として毎年市が実施している訓練に消防団員も参加し、水防工法訓練の実施、避難者の誘導等を行っています。

#### ※消防操法大会

高砂市では、消火活動の基礎となる消防操法技術の向上を目的として、二年に一度消防操法訓練を実施しています。平成二八年はポンプ車の部で、東播磨地区大会を優勝し、県大会出場を果たしました。

#### ※普通救命講習会

地震等大規模な災害時には、多数の傷病者が出ることが予想されることから、消防団員は毎年二回救急救命士の指導による普通救命講習会を受講しています。心肺蘇生法やAEDの使用手順など、救命処置を学び緊急時に備えています。



【水防訓練（土のう作成）】



【普通救命講習】

#### ※献血

多くの輸血を必要とする方々の尊い生命を救うことに役立てるため、献血に協力しています。毎年一〜二回実施しており、今年で一回目となり、今回は一三名が献血に参加しました。



# わが町の団長さん

## 「地域住民との つながり」

赤穂市消防団長

吉田 清光



赤穂市は、兵庫県の西南端に位置し、北は緑の山々に囲まれ南は穏やかな瀬戸内海に面し、市の中央を清流千種川が流れる、年間を通じて晴天の日が多い気候温暖な街です。また、忠臣蔵のふるさととして有名で、毎年一月一日に行われる赤穂義士祭には、全国から多数の観光客が訪れます。

わがまちの団長は、消防団員として四一年の長きにわたる郷土の防火防災に活躍され、昨年四月一日に第七代団長に就任されました。

「自分の地域は消防団が守らなアカンのや。」と近所のおっちゃんに誘われ二六歳で入団、「災害から住民の生命・財産を守るのが我々の使命」と叩き込まれ、日夜訓練に励まれました。

ある時、近所でサイレンが聞こえ家の窓を開けると、近くの家がほとんどない勢いの火柱があがっているのを見て体が震えたことや、千種川が越水し、水没した牛小屋に閉じ込められた老人を救助に行った時に見た今にも自分を飲み込みそうな水の勢いに恐怖を感じたこと等、数多くの現場活動から火の怖さ、水の恐ろしさを身をもって経験し、その思いを忘れてはならない

と常に自分に言い聞かせ、日々活動に取り組まれているそうです。

団長が一番気を配っていることは、地域の安全安心を守るため、自治会自主防災隊を育成し住民と消防団の連携をいかに育んでいくかということです。

特に若者が不在となる昼間を、残っている住民でいかに守るかということを考え、普段から住民と接することが大切であることを常に団員に説かれています。

家業はビーズアート吉田を営み見た目に寄らず繊細な指先で製品を作り出す職人さんです。

数年前までは地域の子供達に野球を教え、今はストレス発散のゴルフと仕事の後に飲むお酒がなによりの楽しみという笑顔が似合う素敵な団長です。

## 「闘志・冷静・迅速」

豊岡市出石消防団長

中嶋 勝己



昭和三十三年九月、旧出石町、室植村、小坂村、神美村が合併し、「出石町」が発足しました。翌年には、旧四町村消防団を統合した「出石町消防団」が発足しました。

平成一七年度からは、一市五町合併により豊岡市に。市では、多団制をとり、六団の一つとして「豊岡市出石消防団」となりました。

昨年、発足六〇周年を迎えるにあたり、記念式典を開催し、「消防精神」を未来に向けて引き継ぐ不退転の決意を表明しました。

豊岡市出石消防団は、一分団、三六四名の団員を擁し、出石町九、九五二人、三、八六二世帯の安全、安心を守っています。

出石消防団を牽引するのが、昨年、第一〇代目の団長に就任した中嶋団長です。

中嶋団長は、現在五四歳。四一歳で分団長、四七歳で副団長という経歴の持ち主です。出石と言えば「皿そば」ですが、出石の観光に一役買っているそば屋の大將が本業です。

消防団の訓練、行事と言えば、土日が当たり前ですが、本業の書き入れ時も土日になります。訓練、行事となれば、

深夜にはそばを打ち始め、店の準備をして、消防の訓練、行事に出動されます。これも出石消防団の陣頭指揮を執るためなら何のその。バイタリティー溢れる行動に分団長もタジタジです。突き動かしている原動力は、「闘志・冷静・迅速」の団訓を基に、市民の生命、財産を守る使命からとおっしゃいます。

出石消防団の資質向上を目指し、副団長と共に奮闘中です。

## 「自らの地域は 自らで守る」

豊岡市城崎消防団長

椿野 仁司



豊岡市は平成一七年四月一日に兵庫県の北東部に位置する一市五町が合併して出来たまちで、城崎地域は面積三一、一九平方キロメートル、町の中には文豪 志賀直哉が執筆した「城の崎にて」の舞台である城崎温泉の風情が今も残り、自然豊かで全国的に知られた温泉の町です。

豊岡市城崎消防団の管轄区域人口は約三、五〇〇人と小規模ですが、温泉地であることから夜間人口は宿泊される観光客によつては倍以上に増えます。特に最近では外国からの観光客が多く様々な言葉が温泉街を飛び交っています。

この地域を一本部、五分団、一二八名の体制で守っています。

椿野団長は昭和五三年に城崎町消防団に入団、平成二三年から副団長、平成二九年四月一日に団長に就任されました。

その間、数々の風火災害に出動され、また住宅密集街区火災を想定した訓練に積極的に取り組まれ、常に予防消防を中心に活動されてきました。

性格は積極的に責任感が強く「自らの地域は自らで守る」の信念の基にリーダーシップを発揮されています。また、部下の意見も尊重しながら消防団員の団結に努め団員からの信望も非常に厚く、団員活動時の安全にはいつも配慮をされています。

家業は城崎町内で「つばきの旅館」を経営されており、宿泊・宴会の準備等にと毎日忙しく走り回っておられます。団長に就任され、間もなく一年になるうとしています。

地域はもとより観光客の安全・安心を守るため日々精進されています。

## 「有事の際は、身支度を整え 心にヨシ！」

豊岡市日高消防団長

成田 安浩



「何事もスピーディーに！」

豊岡市の西部に位置する日高地域は面積の四分の三を山林が占め、西日本最大のスキー場「神鍋高原」を持つ自然豊かな地域であり、人口約一七、〇〇〇人ののどかなまちです。

豊岡市日高消防団は、この日高地域を管轄する消防団で、分団数は一八分団、団員数五八三名、車輛二一台中で消防団活動を行っています。

成田団長は、昭和五七年に入団され、平成二〇年から副団長を勤められた後、平成二九年四月に団長に就任されました。

安心安全な町づくりにはチームが一致団結し、消防力の強化、地域を愛する消防団を作り上げることが必要だと団長は考えておられます。

団結成以来、連綿と受け継がれ守り続けられてきた礼式の中に、集まれ！「ヨシ！」の節度があります。有事の際には身支度を整え心にヨシ！と気合を入れ、自らの安全を確保しながら行動する心構えを、日高団から全国に発信していきたいとの野望をお持ちです。

このような想いから、団活動時には厳しく毅然として当たられる団長ですが、ひとたび団服を脱げばとても温和で周囲への気遣いを忘れない方で、団員はもとより市民からも厚い信望を得られています。今後も地域防災の要として活躍くださることを住民一同願っています。



公益財団法人 兵庫県消防協会



# 地域のお知らせ

## 伊丹市

### 魅力あるまち伊丹

伊丹市は、県の南東部、猪名川と武庫川に挟まれたただらかな丘陵地にあります。大阪市と神戸市のほぼ中間に位置し、大都市圏でありながら、毎年多くの渡り鳥が飛来する関西屈指の野鳥の楽園、昆陽池公園をはじめ豊かな自然環境に恵まれています。

また、市の東部には大阪国際空港があり、直行便の市営バスも運行しており、空に近いまちです。今回は伊丹市の魅力についてご紹介します。

#### 【伊丹のお酒】

伊丹市は清酒発祥の地で知られ、古くは白く濁った「にごり酒」が造られていました。が、伊丹の地で、現在の透明な日本酒「清酒」の造り方が発見されました。江戸時代、伊丹で作られた「清酒」は絶大な人気をほこり、現在まで伊丹の地を賑わせています。

江戸時代に発行された銘酒番付では、最高位である大関



【伊丹のお酒「白雪」と「老松」】



【伊丹まちなかバルの様子】

に、今も市内にある「老松」が見られることをはじめとして、上位二〇位中一九銘柄を伊丹の酒が独占していました。

#### 【四季折々のイベント】

伊丹には、夏の「いたみ花火大会」、冬の「蔵まつり」など、四季を通じて多くの人が集まる祭りやイベントが開催されています。JR・阪急伊丹駅周辺の中心市街地で開催される「伊丹まちなかバル」は、毎年春と秋の二回開催され、参加者は年々増えて



【瑞ヶ池公園「里帰り桜」】

市外からも多くの方に来て頂いています。函館で誕生した「バル」は、飲食店と街の活性化を目指す食べ歩き・飲み歩きのイベントで本州最初の開催地である伊丹市では、音楽イベント「伊丹オトラクな一日」と同時開催し、今では伊丹を代表するイベントとなりました。

#### 【伊丹の桜】

世界的な桜の名所、米国ワシントン・ポトマック河畔では、本市東野産の丈夫な台木から育った桜が、日米友好のシンボルとして、百年以上経った今でも美しい花を咲かせています。市内には数多くの桜の名所があり、瑞ヶ池・昆陽池・緑ヶ丘の三つの公園や緑道で、約一、三〇〇本の桜が咲き誇ります。特に瑞ヶ池公園では、ソメイヨシノを中心に一〇種六〇〇本の桜が見られ、ワシントンからの「里帰り桜」も成長し、多くの花を咲かせます。

伊丹市の魅力について、いくつかご紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。コンパクトながら、たくさんの方が詰まった伊丹市に、皆様もぜひお越しください。これからの季節、美味しいお酒と美しい桜をご堪能ください。

## 佐用町

### 佐用町「利神城跡」と「平福御殿屋敷」を一体とした区域の国史跡指定が、平成二九年十月十三日に正式決定

佐用町の「利神城跡」からふもとの「平福御殿屋敷跡」までの一帯が国史跡として認められました。古くは南北朝時代に築かれたといわれる利神城。その周囲に城下町として発展し、利神城の取り壊し後は因幡街道の宿場町として栄えた「平福」の町。その特徴と歴史をお知らせします。

#### 史跡としての特徴

山頂に残る高い石垣  
利神城は、南北朝時代から江戸時代にかけて、播磨国の北西部における軍事と政治の拠点としての役割を持った城でした。  
現在は標高三七三メートル



利神城跡

の利神山の頂上に石垣が残っています。この石垣は戦国時代後期以降に建てられた城の特徴の一つである「高石垣」ですが、平地ではなく山頂に築かれているのは貴重です。国史跡指定においては、この石垣が良い状態で現存していることが高く評価されました。山城と御殿場屋敷の跡がセットで残る

#### 平福の街の変遷

山城の跡に加え、ふもとでは、城主の生活場所であった「平福御殿屋敷跡」が残っています。  
山城の跡と居館の跡が一体となつて残っているのは貴重であり、「利神城跡」としてセットでの国指定史跡となりました。

#### 【城下町】

利神城が改修され、池田由之や輝興の住んだ約三十年間は「城下町」として栄えました。由之が利神城のふもとに「御殿屋敷」や城主の家族、家臣などの屋敷を建設。佐用川を堀に見立て、川向かいに町人を住まわせていました。

#### 【宿場町】

平福藩の廃藩直後に参勤交代制度が始まり、因幡街道沿いにあった平福は、「宿場町」として昭和の初めごろまで栄えました。旅籠(宿屋)が一軒のほかにさまざまな業種で約三〇〇軒の商家が並んでいました。今でも屋号には、当時の業種「こうじ屋、たる屋など」や、由来する地名「たつ乃(龍野)屋、河内屋など」が名残として残る家があります。

#### 【お詫びと訂正】

兵庫消防平成三〇年一月五日発行第六七四号の「地域のお知らせ」の記事(第八面)において、高砂市の題名が、「日本列島の中心・日本のへそ」となっていました。正しくは「謡曲「高砂」発祥の地」でした。訂正してお詫び申し上げます。

#### 編集後記

日増しに暖かさを感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今月号では、第一面と第二面に、自治体消防七〇周年記念式典について掲載しております。表彰受賞者の皆様、誠におめでとうござります。

また、第三面では、一月一七日に開催しました「ひょうご安全の日」のつどいについて掲載しておりますので是非ご覧ください。  
さて、今月号で平成二九年度の兵庫消防は最終号となりました。来年度も紙面の充実に向けてまいりたいと思っておりますので、今後も「兵庫消防」のご愛読のほどよろしくお願ひします。

